

羽島市特別職報酬等審議会 会議録（要旨）

日 時	令和8年6月2日(火) 午前9時55分～11時55分
場 所	羽島市役所 本庁舎3階 301会議室
出席者	<p>（審議会委員）</p> <p>羽島市自治委員会会長 小森 博昭氏 羽島商工会議所会頭 高木 豊氏 社会福祉法人羽島市社会福祉協議会会長 中畑 弘氏 UA ゼンセン長谷虎紡績労働組合長 岩越 紀明氏 ※欠席者 学識経験者（羽島市女性人材バンク登録者）浅井 都氏</p> <p>（市側）</p> <p>市長 松井 聡（諮問事項審議開始まで） 総務部長 高橋 宏成、職員課長 岩田 恭一、同課長補佐 田島 裕史 議会事務局議会総務課長 浅井 元彦、同課長補佐 堀 真人</p> <p>（傍聴者）</p> <p>1名（審議中は非公開のため退室）</p>
内 容	<p>1 開会 会議の公開・非公開については、会長が選出されるまで公開とし、会長選出後に、公開・非公開を改めて決定することを確認。</p> <p>2 委嘱書交付</p> <p>3 市長挨拶</p> <p>4 会長選出 中畑弘氏を会長に選出</p> <p>5 会長挨拶 会議の公開・非公開について協議。諮問事項の審議については非公開とし、答申については公開することを決定。</p> <p>6 審議事項 市議会議員の議員報酬及び政務活動費の額について諮問 市議会議員の定数について意見聴取 （市長退室）</p> <p>7 議事 ○資料の配付 資料1 羽島市特別職報酬等審議会委員名簿 資料2 羽島市特別職報酬等審議会の開催について（依頼）（写し） 資料3 諮問書（写し） 資料4 県内市の議員定数の状況及び羽島市の議員定数の変遷 資料5－1（県内市）財政状況等比較一覧 資料5－2（県内市）議長、副議長、議員報酬額等比較一覧 資料5－3（県内市）市長、副市長、教育長給料等比較一覧 資料5－4（羽島市）特別職報酬・給料改定の推移 資料6－1（羽島市）政務活動費の概要 資料6－2（羽島市）政務活動費会派別支出状況 資料6－3（県内市）政務活動費の状況 資料7（羽島市）議員報酬等の改定の影響額</p> <p>○会議の公開・非公開について ・会長が選任されていない会議については原則公開となっているた</p>

め、公開として会議を進行。会長選任後、公開・非公開について審議をし、諮問事項の審議過程は非公開とし、答申から公開とすることを決定。

○説明 事務局より配付資料に基づき順次説明

- ・本審議会開催の理由、諮問事項及び意見を求める事項について説明。
- ・県内市の議員定数の状況、財政状況、議員・市長・副市長等の報酬額、改定の推移、政務活動費の概要・支出状況等について説明。

○審議事項（委員の意見）

議員の報酬の額について

- ・民間企業でも、一部の大企業以外は2万円もベースアップしていない。1万円でも良いのではないか。
- ・議員報酬は生活給なのか疑問。報酬であるのに、賞与があることに疑問。賞与をなくしても良いのではないか。
- ・生活給としている議員もいると思うが、定年退職した方や農業をやっている方もいる。
- ・企業の役員報酬と考えると現在の月額40万円でも十分高いのではないか。
- ・羽島市の議員の現状を踏まえて検討してもよいのではないか。
- ・提案されている5%戻すという考え方自体が理解できない。元々、議員年金で引かれていた分であり、手取りとしては減っていないのではないか。元々が、高すぎたのではないか。
- ・元に戻すということであるが、そもそも現職の議員の多くは受けたことがないため、元に戻すという発想はない。
- ・市長も少し元に戻しているため、議員も戻すことはある程度理解できる。
- ・賃金は、年5%程度は上がっている。物価上昇分と考えれば理解できるところもある。しかし、若者中心（低賃金）であり、平均賃金が30万円程度である中、40万円は十分な額ではないか。
- ・議員経験年数で報酬額に差を設けることはできないか。
- ・市長との給与比率を見ると、他市に比べても羽島市の議員報酬は高い。
- ・市長等は、毎日公務があるのに対し、議員はどれほどの公務日数があるのか。
- ・決算において、人件費率が13.2%で県内3位ということは、職員の給与が低いということではないか。ラスパイレス指数も他市に比べて低い。そのような中で、議員報酬額を上げるのか。職員の給与を上げた方がよいのではないか。
- ・議員の中で決めると、今回の提案のような話になってしまうのではないか。市民の声をもっと反映すべきでないか。
- ・5%にこだわる必要はないのではないか。2%や3%の引き上げによる影響額を確認したい。

政務活動費の額について

- ・支給方法を個人にすることで、個人としての活動はしやすくなる。一方で、会派でまとまって大きなイベント等を行うことが、難しく

なるのではないか。

- ・わざわざ旅費や宿泊費を使って、遠方でセミナー等に参加しなくてもよいのではないか。今は、オンラインも充実しており、また名古屋市であれば日帰りで参加できる。
- ・チラシについて、自身の宣伝をしており、正確な情報発信がされているのか疑問があり、公費である政務活動費で出すことに疑問。
- ・羽島市は、県内他市に比べれば平地で面積も大きくないため、議員活動はしやすく、他市と地域性が異なる。
- ・実際に活動費にいくら使っているのか。昨年度だけではなく、近年の平均使用額を確認したい。
- ・10万円の引き上げでなくてもよいのではないか。4万円の引き上げによる影響額を確認したい。

議員の定数について

- ・1人削減の根拠は、何か。出生率の低下や団塊の世代の高齢化等により、人口減少はより加速する。
- ・人口、面積、財政状況等が異なるため、他市と比較するものではない。元々、現状でも多いのではないか。羽島市が率先して削減してもよいのではないか。
- ・県内他市に比べれば平地で面積も大きくないため、大人数は必要ない。
- ・定数と報酬は別々に考える必要がある。
- ・定数を1人減らすから報酬を戻す（引き上げる）という考え自体に疑問がある。定数を先に決めてから議論した方がよい。
- ・市民アンケートの回答率が3割以上であったことから、結果や意見を尊重すべきで、2人以上減らすべきではないか。1人減では、反映されていないのではないか。一挙に4人減らすことはできないが、アンケートの間をとり2人減というのを市議会として出すべきであったのではないか。
- ・1人減らす場合、議長を除くと偶数となり、最終的に議長が判断することが多くなり、責任が重くなってしまわないか。
- ・定数や報酬額を議員自身で決めること自体に疑問がある。議員以外で決められないのか。
- ・減らした分は、ある程度財政への好影響を期待したい。
- ・定数を2人減らした場合の影響額を確認したい。

○審議事項のまとめ（次回検討事項）

議員の報酬の額について

- ・2%や3%の引き上げも比較。

政務活動費の額について

- ・年12万円に引き上げた場合も比較。
- ・近年の平均使用額等を比較。

議員の定数について

- ・定数を2削減した場合も比較。